



繪
言
丹青
教



王^{わう}嫁^あらるる^{らう}と^{しん}妻^したり^らむ^らの^ら夫^との^ら名^なを^ら書^かす^ら
家^けの^ら名^なを^ら書^かす^らの^ら人^に。私^しと^ら見^みせ^らん^らの^らい^いえ^え
ト^らう^らそ^らし^しま^ま事^じあ^あら^らや^やされ^れ明^め
れ^れ古^こ宗^{そう}皇^{わう}帝^{てい}は^は后^{こう}の^ら名^なを^ら書^かす^らも^も内^{ない}割^{かく}二十^{じゅう}章^{しょう}
と^と撰^{せん}り^らせ^せは^はい^いく^く女^{にょ}の^らと^と人^{にん}を^らら^らる^ると^と書^かす^ら
古^こ漢^{かん}の^ら賢^{けん}女^{にょ}曹^{そう}大^{だい}家^かの^ら女^{にょ}備^び洛^{らく}十^{じゅう}二^に章^{しょう}と
記^きり^らく^く貞^{てい}女^{にょ}の^ら名^なと^と妻^したり^らむ^らの^ら女^{にょ}織^ち七^{しち}章^{しょう}
と^との^らう^らそ^らし^し我^{わが}の^ら娘^{むすめ}と^と書^かす^らは^はい^いく^くの^らい^いえ^え

後^ご唐^{たう}は^は朝^{てう}教^{きやう}帝^{てい}陳^{ちん}邈^{まう}の^ら書^か鄭^{てい}氏^しの^ら女^{にょ}孝^{きやう}經^{けい}
十^{じゅう}八^{はち}章^{しょう}と^と撰^{せん}り^らせ^せは^はい^いく^くの^らい^いえ^え
の^ら名^なを^ら書^かす^らは^はい^いく^くの^らい^いえ^え
家^けの^ら名^なを^ら書^かす^らの^ら人^に。私^しと^ら見^みせ^らん^らの^らい^いえ^え
ト^らう^らそ^らし^しま^ま事^じあ^あら^らや^やされ^れ明^め
れ^れ古^こ宗^{そう}皇^{わう}帝^{てい}は^は后^{こう}の^ら名^なを^ら書^かす^らも^も内^{ない}割^{かく}二十^{じゅう}章^{しょう}
と^と撰^{せん}り^らせ^せは^はい^いく^く女^{にょ}の^らと^と人^{にん}を^らら^らる^ると^と書^かす^ら
古^こ漢^{かん}の^ら賢^{けん}女^{にょ}曹^{そう}大^{だい}家^かの^ら女^{にょ}備^び洛^{らく}十^{じゅう}二^に章^{しょう}と
記^きり^らく^く貞^{てい}女^{にょ}の^ら名^なと^と妻^したり^らむ^らの^ら女^{にょ}織^ち七^{しち}章^{しょう}
と^との^らう^らそ^らし^し我^{わが}の^ら娘^{むすめ}と^と書^かす^らは^はい^いく^くの^らい^いえ^え

一海の是のきりらるる宝

一海の是のきりらるる宝

一背負の是のきりらるる宝

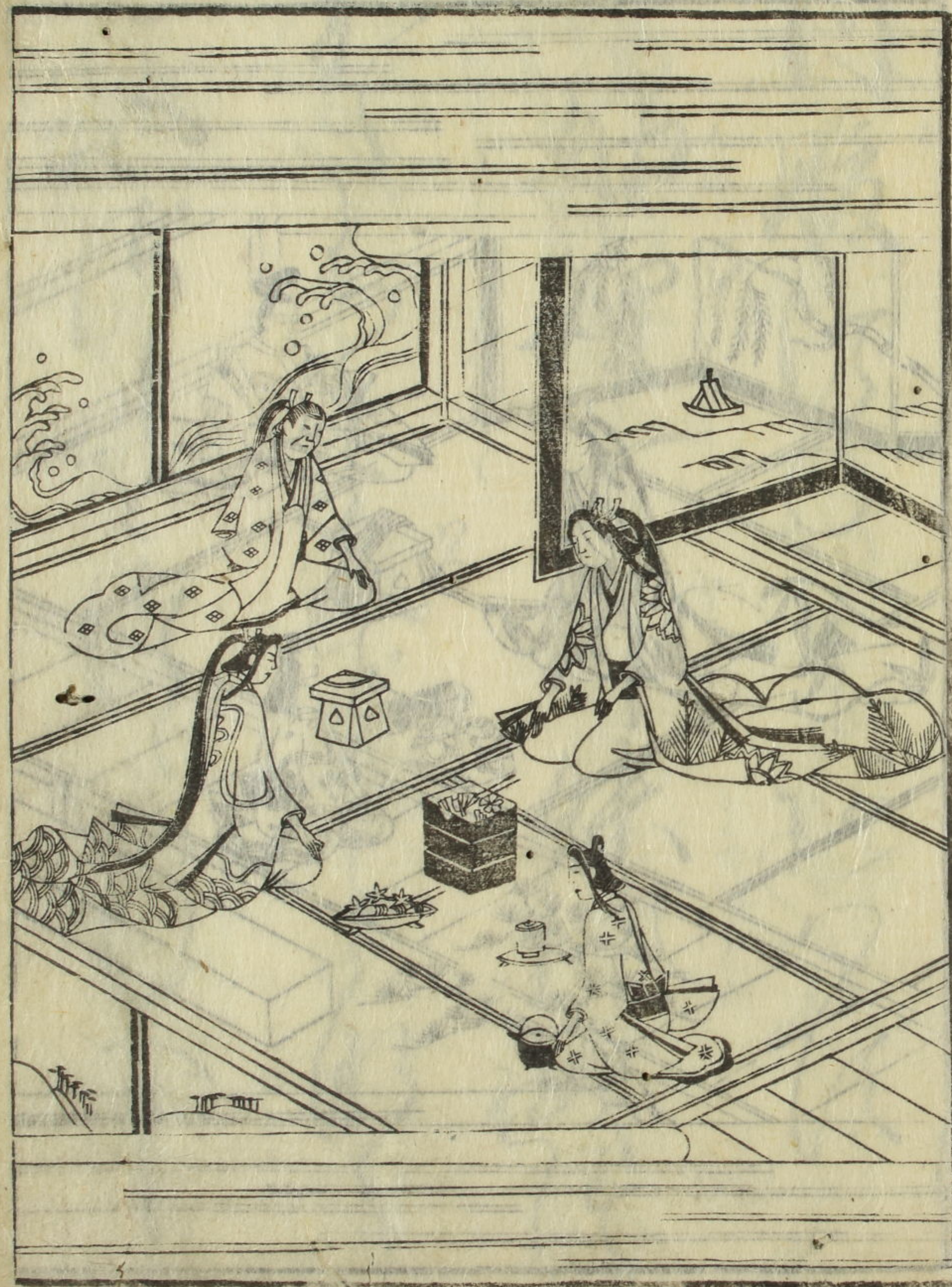
一余終つて何の總よ路

一ん成法しよまらぬ義なる

一我ら此の高類よは

一勅字よるぬ女は

一女ら此の帯末よる

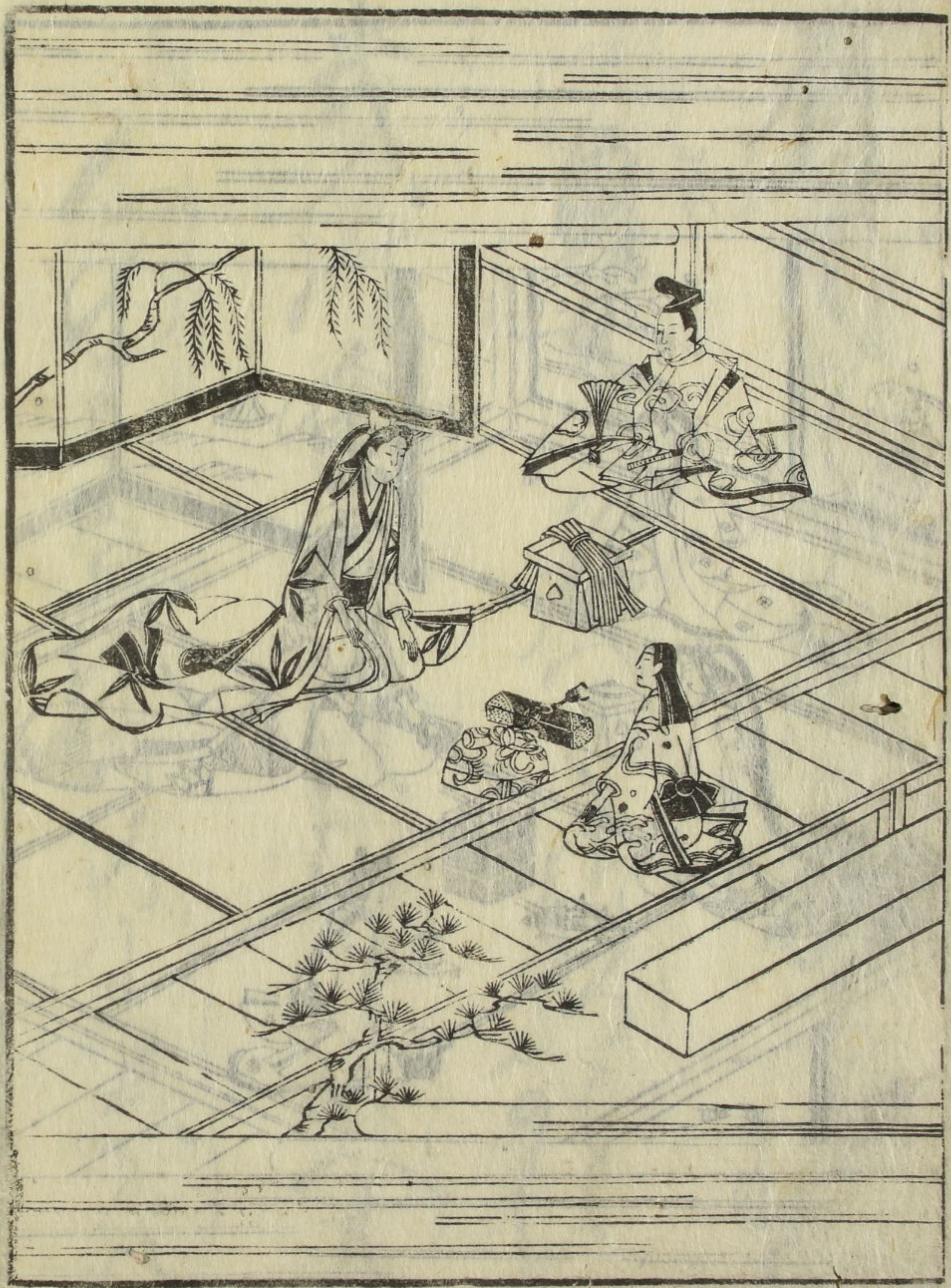


人の心成りたるよき事

一歩に金とけしり大

貞女は名くけり

一眉月より六巻



一 月 腹 行 〇 一 二 三 四

袖 裡 と 姉 妹 あま い い い

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

一、トク益の目めくくからかるる也

一、カ考します一お六ろ年ねん一し考し

古く

一、トク幼時よ多くおもつるものとさすはぬ

一、トク一いけく何なんじか

一、トク故こ物ぶおもつるものとさすはぬ

一、トクわの針はりはの鳥とりの時なり

一、トク一い暇ひまとのぞのくく續つ去りと学ぶ

一、トク亂らんと出ひて續つ線せんと扱ふ

一姑あしなよわひて業わざと子こがぬ

一2家いへと持も本ほんし

一ま夫おとこよ海うみととり大おほ嘗なほ味あじを

一もももともろろににははららななし

一姑あしなよ成なりていよめと港みなと

一嫁よめハ四よ男おとこ姑あしなととららななし

一福しあり家いへよととららいいききななし

一たららななららななららななららなな

一貧いひ一い人ひと乃なり書し毒どくととたたらら

清いさだ潔けつはは女に音ね言ごじじ一一

一ち父母ふぼ一あ天てん地ち乃なり一一

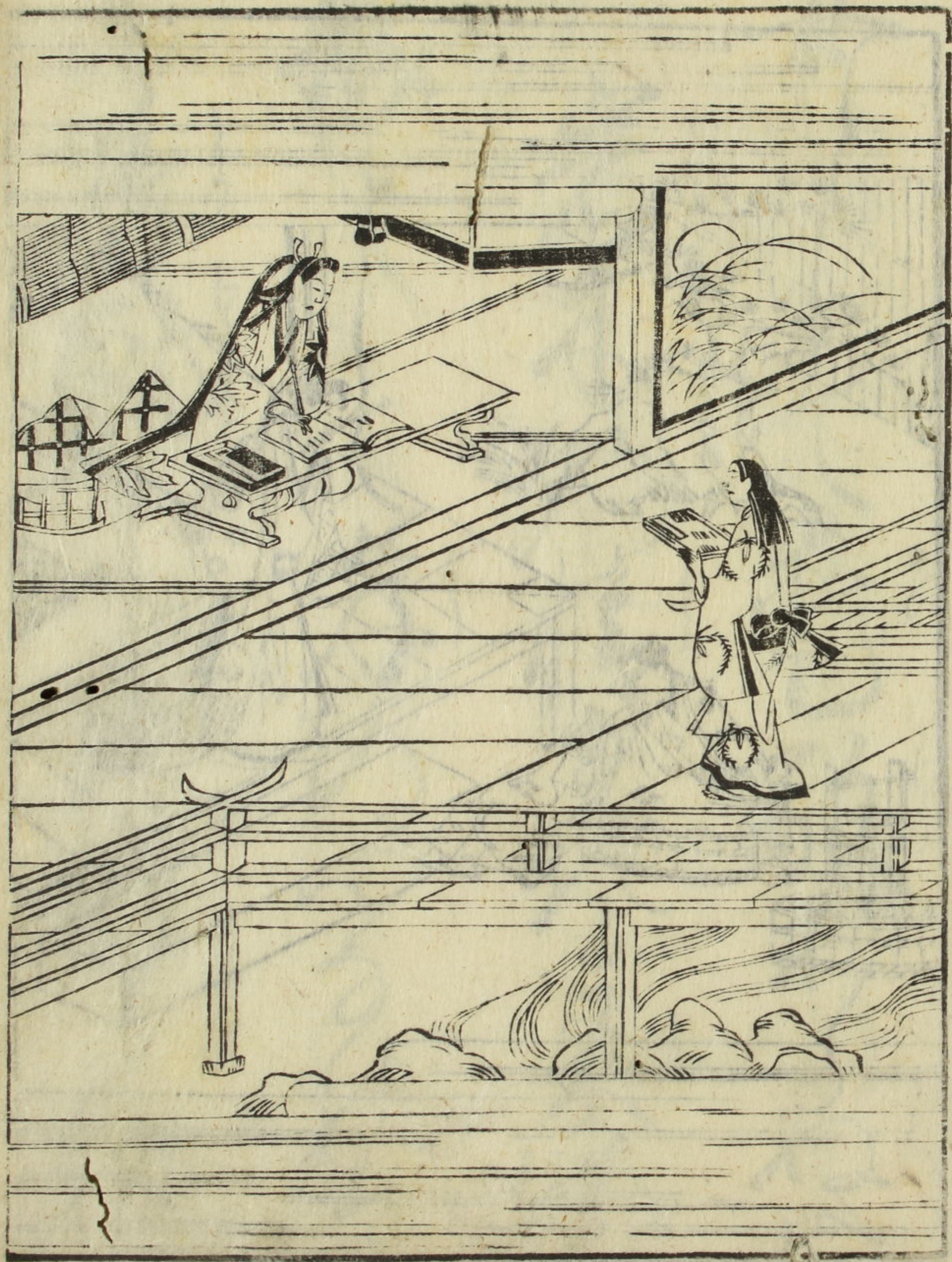
男おとこ姑ぢやう月つき日ひ乃なり一一

一い丈ぢやう乃なり一い人ひと乃なり一い者もの乃なり一一

女に乃なり一い後ご者もの乃なり一一

一い父ふ母ぼ乃なり一い朝あさ夕ゆふ乃なり一い孝かう乃なり一一

男おとこ姑ぢやう乃なり一い恭こう乃なり一一



一丈婦争ひ嘆のまね

理よひてまね
海へ

一破あはれしるまのまね

才娘よの毛のふゆる



一 女として孝を教ふるぬ

一 若木乃情を以て養ふ

一 椽として孝のつるん

一 多敷く是の如く

一 式後と守りけりて

多んそめの際とまねん

一字と報するまらん
惟の八若れ母となん

一 女の地獄乃使かる

よく仏の種子とあり

一 面の善後と思ふと茶

心の夜母れと説き

一姑あしなとくまあしなまあしなふあしな母あしなのあしなくあしな

一継子ついでことあひ巻あひしあひすあひらあひ子あひはあひはあひ

一丈あしとあし菴あしのあしつあしらあしすあしらあし

一丈あし又あし書あしああしとあしああし慈あしへあし

一己おのれ夫おのれのおのれ親おのれとおのれらおのれやおのれまおのれ

一丈あし又あし己あしがあし親あしとあしらあしやあしまあし

一我わが母わがとわがらわがりわがあわがらわがんわがらわが

一あしらあし夫あしのあし家あしとあしらあしすあしらあし

一休の書は邪多しと云ふ

一休の書は邪多しと云ふ

一休の書は邪多しと云ふ

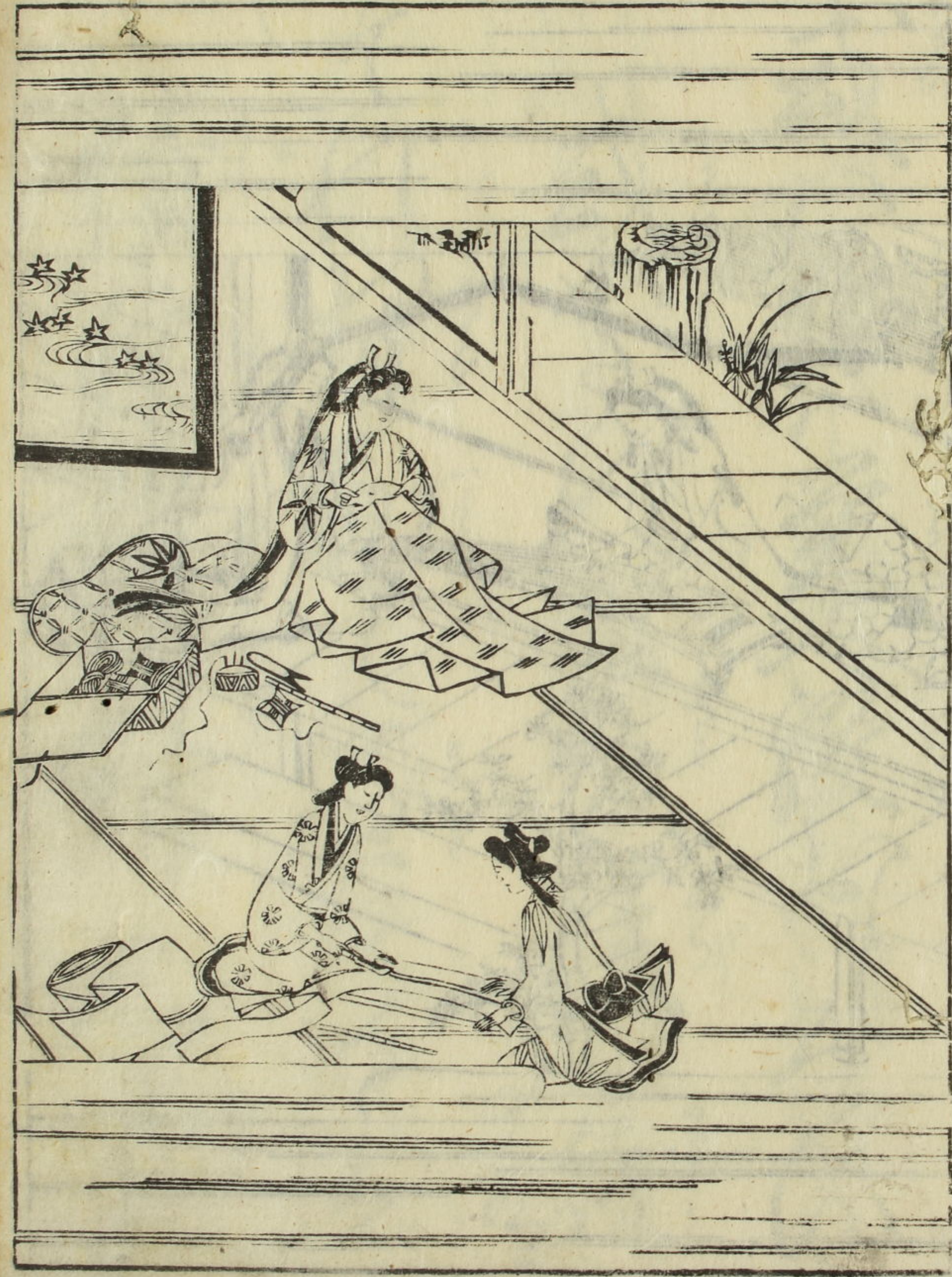
一休の書は邪多しと云ふ

一休の書は邪多しと云ふ

一休の書は邪多しと云ふ

一休の書は邪多しと云ふ

一休の書は邪多しと云ふ

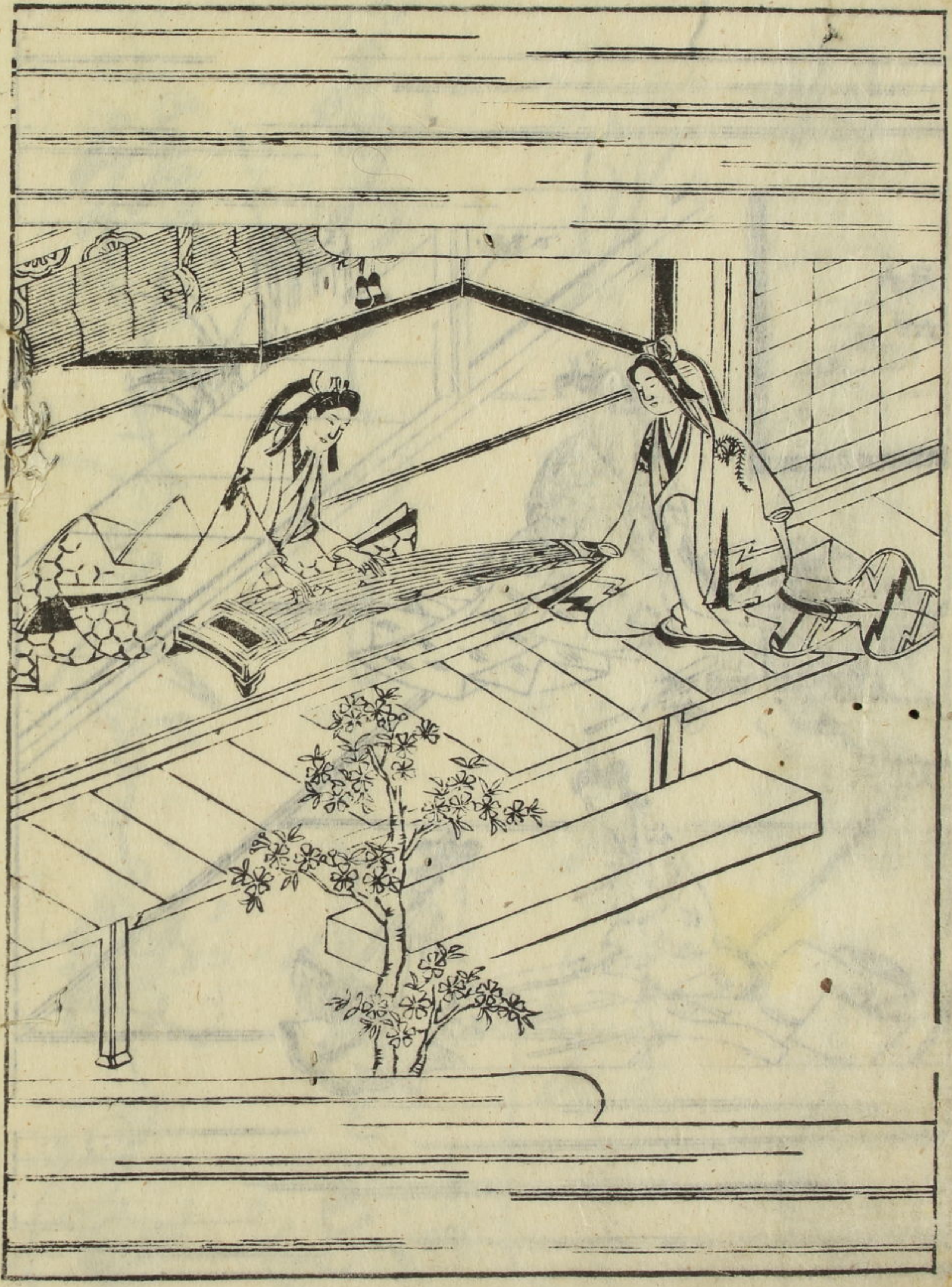


一瓢 ひょう 少 すくなく 人 ひと の 禍 わざはひ と と 命 いのち

身 み の 親 おや 乃 すなは ち 老 おい たる 所 ところ ぬ ぬ べ

一 為 な り と と 子 こ と と 色 いろ 貧 ひん と と 志 し

後 あと 一 ひと 人 ひと と と 親 おや 縁 ゆかり 也 なり



一或ハ始ハ業ハ終ハ人ハ

或ハ心ハ人ハ業ハ終ハ人ハ

一それ習初て益ハ人ハ

績綜繼針乃業

一又学是して助まほとまるらんん

一讀書系竹安徳たけやすのの

一但たんん不ふしし一一法はひひてて法はりり

一又身みはは毎まららくく程ほどありあり

一或ある一一家い業ぎやうとと休やすみはは

一一ははるるのの以も時とき親おやはは活いるる

一嫁よめくくのの子こららはは活いるる

一一老おててのの子こはは活いるる

一是^{これ}女^に此^の之^を後^にあり

身^に終^るま^るく^は是^の終^る

女^に交^るる^に

女^に交^るる^に終^る

